

㊦白鳥小 田中 康規
鳴海中 梶川 祐介
伊勢山中 襖田 佳明

常安小 大島 大典
守山西中 近藤 謙

旭丘小 中村 崇人
笹島中 日比野 佑哉

自ら学びを調整する児童・生徒の育成を目指した算数・数学学習

1 研究のねらい

ナゴヤ学びのコンパスには、子どもたちが学習に見通しをもち、学習の状況を振り返り、調整しながら学習を進めていくことができるようになることは、将来の仕事や日常生活についても自分で調整し、豊かで幸せな人生を実現することにもつながるため、とても大切なことであると述べられている。これは、自ら学びを調整する大切さについて指摘しているとも捉えられる。

これまでの学校教育では、全ての児童・生徒に一定水準の教育を保障する一方、同質性の高い学年学級制の中でみんなが同じペースで学習することを前提として進められているため、学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定する機会が少なかった。

そこで、本研究では「自ら学びを調整する児童・生徒の育成を目指した算数・数学学習」について考えることにした。「自ら学びを調整する」ための工夫は、他教科においても同様に考えられる。しかし、算数・数学は系統性の強い教科であるという特性上、中学校での数学学習は小学校での算数学習を習熟していることが前提で進められるという点も含め、様々な習熟度の児童・生徒が混在した中で同じペースで学習することが難しいという課題があることも事実である。そのような課題を解決しようという点でも、算数・数学で取り組む意義は大きいと考えた。

2 研究の内容

自ら学びを調整するためには、習熟度を把握し学習内容を選択すること、選択した学習内容を適切に実行すること、学びを振り返り自己評価することが大切である。ナゴヤ学びのコンパスにも、自分に合ったペースや方法で学ぶことができるようにするために、「見通す」「実行する」「振り返る」という3段階のプロセスを意識させるための支援が必要であると述べられている。そこで、次のような手立てを講じ、それぞれのプロセスを意識させて実践を行う。

① 習熟度を把握し学習内容を選択するための工夫

単元の導入場面で、関連する既習内容を振り返ったりテストしたりすることで、自分の習熟度を把握させる。また、児童・生徒に適切な学習内容を選択させるために、教師は習熟度に応じた学習内容を複数提示できるように準備をする。

② 選択した学習内容を適切に実行するための工夫

学習内容を実行する場面で、選択した学習内容を適切に実行できているかを児童・生徒にチェックさせる基準を与えたり、教師が助言したりすることで、適切に実行させるようにする。

③ 学びを振り返り自己評価するための工夫

単元の導入場面で評価基準を提示する。単元の終末場面で評価基準を基に振り返らせることで、自己を客観的な基準で評価させるようにする。

3 授業実践予定

小学校第4学年 単元「2けたでわるわり算の筆算」 中学校第3学年 単元「二次方程式」